

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年4月6日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677400147
法人名	医療法人社団春陽会
事業所名	グループホーム春光苑
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町新富536-2 (電話) 0994-68-8070
自己評価作成日	平成27年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年2月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者とスタッフ同士の会話をする時間を多く設けている。
- ・食事等含め、生活全般において、その方にあった支援を行っている。
- ・職員の得意分野を発揮し、イベント等を計画している。
- ・行事するなど、家族の協力・参加が多い。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○町の中心地の閑静な住宅地の一角に、母体法人の医療機関や老人保健施設、通所リハビリ、3グループホーム等が設置されて、運営も一体的になされており、地域の医療、福祉の中核となっている。近くには中学校、託児所、温泉施設、商店等があるが、田園も多く自然豊かで静かな環境である。3グループホームは隣接しており、朝礼、研修会、避難訓練、緊急時の対応、行事等は一緒に取り組んでおり、相互に協力しあえる体制が築かれている。母体法人の医療機関や24時間対応の医療機関との連携も緊密で、利用者及び家族の安心に繋がっている。

○利用者の重度化や終末期への対応については、本人や家族の希望に添って積極的に取り組んでおり、これまで数件の看取りを実施している。また、看取りに関する研修会や、全スタッフで反省点や改善点等の意見交換を実施して、その後のケアの質の向上及び職員の不安の解消等に役立っている。

○管理者は、職員間の協力体制及び利用者・家族との信頼関係の確立が何よりサービス向上に繋がると認識しており、日頃から要望や意見等の把握に努め、課題の大小に関わらず誠意をもって対処しており、職員及び家族等は自由に意見や要望等を気軽に述べたり協議できる体制が構築されている。

○職員の資質の向上については、法人本部も積極的に取り組んでおり、年間計画による施設内研修の他、外部が実施する研修等も勤務を調整する等工夫して受講できるように配慮されている。またケアマネージャーや介護福祉士等の資格取得等にも積極的に支援しており、処遇面にも反映される体制が構築されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を全員で唱和し、確認し合い、共有し意識づけている。	法人の理念を基にホーム独自の理念を作成して、利用者個々の能力等を見極めながら理念に添った最善のケアを目指して日々努力を重ねている。理念はホールの壁面に掲示して毎朝のミーティングで唱和し、併せて日々のケアの中での振り返りや職員会議等で話し合いを繰り返し実施して認識を深めてケアへの反映を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の案内を毎月、地域の方に届け、苑での様子を伝えている。 町の文化祭見学、子ども会のハロウィン参加など。	地域で開催の流鏝馬、十五夜の相撲大会の見物や自治会の清掃等に利用者と職員が一緒に積極的に参加している。毎月発行の苑だよりを地域の全世帯に配布しており、施設が主催する「地域交流運動会」には多くの家族や地域の人の参加が得られている。日常的には近辺の散歩やドライブの際の近隣の方々とのあいさつや会話、野菜を頂くなど円滑な交流がなされている。また、ボランティアや中学生の体験学習、他の施設職員の研修等を積極的に受け入れており、利用者はこれらの人々との交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	町の会合の中で、認知症について、症状等説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や家族、スタッフと意見交換を行い、よりよい生活に繋げている。	会議は家族や地域住民、自治会長、行政の職員、法人本部の職員等関係者が参加して定期的開催されている。ホームの運営や利用者の現況、外部評価の結果等の報告がなされると共に、行事や課題等についての意見交換が行われている。会議の内容は職員にも周知が図られて業務改善やサービスの質向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が、主に行政との連携を図っている。	町担当者には運営推進会議に出席して頂くとともに、現況報告や各種の手続きに出向いた時に、施設の運営やケアに関する相談や情報交換をしている。助言や提案をいただくなど協働関係が築かれており、これらは利用者のサービスの向上に繋がっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修に参加し、勉強会の中で報告し、スタッフ間で再確認している。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修を「身体拘束0への手引き」を基に計画的に実施し、また毎日のミーティング時に積極的に話題にして理解を深めている。日々の支援の中で、身体や言葉による拘束を行わないように職員相互で喚起しあってケアの質の向上に努めており、外出したがる利用者には、同行して近隣の散歩やドライブで安定を図る等、利用者の気持ちを大切にしたい暮らしの支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、勉強会を行い、虐待のないケアを行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し、勉強会の中で報告し、スタッフ間で再確認している。 必要な方は、活用できるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際、重要事項の内容・リスク等の説明を行っている。家族からの質問等も納得して頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	委員会を設けて、相談・クレームなど対応し、対策を立てて実施している。	利用者の思いや意見は声かけや所作の見守り等で把握に努めるとともに、ご家族とは来訪時の対話や電話、家族会（年2～3回）の機会に、話しやすい雰囲気作りを図り意見や要望を頂くようにしている。それらはミーティングや職員会議で内容を共有し、十分に話し合いを行って改善に努めており、結果は速やかに本人や家族にも報告してケアへの反映に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや日々の業務の中で意見を聞くようにしている。また、職員同士の意見交換の場を設け、業務改善等を行っている。	職員の意見や要望等は、ミーティングや日常のケアの中、休憩時の会話等で、また内容によっては職員個々に合わせた声かけも行う等、話しやすい雰囲気作りに努めて把握し、管理者はこれらを業務改善や利用者へのサービス向上に反映できるように取り組んでいる。特にケアに関することは、職員の意見を十分聞き取り、職員全員で検討して、質や意欲の向上に繋がるように努めている	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得に応じて、手当で・給与の見直しや勤務状況に応じて正職への登用を行い、意欲を持って働けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者から代表者への報告で一人ひとりを把握できるように努めている。</p> <p>毎月、勉強会を行ったり、外部の研修にも参加できる機会を設けスキルアップをはかれるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の研修会を通して、交流する機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族に希望を聞いて、カンファレンス等で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に、家族に状況説明を行い、家族からの要望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に希望を聞いて、カンファレンスを行い、本人が出来ることやしたいことを取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を尊重し、理解を深めながら、家族同様な関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子を報告し、本人が生活しやすいように支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソン以外の子どもさんともよりよい関係を築くために、誕生日等のお祝いの電話をしている。	利用前に本人や家族等から、生活歴、病歴、地域の人との交流状況、趣味、嗜好等の聞き取りを行い、個人台帳に記載して情報を共有しており、本人の希望や状況に沿って行事への参加や散歩、ドライブ、墓参り、一時帰宅等、馴染みの人や場との関係継続に家族と連携して支援している。また、利用者の子供全員に写真入りの年賀状を出すなど家族とのつながりを大切に支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者・スタッフと一緒にお茶を飲みながら会話をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で会う機会がある時は、挨拶・会話をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの見直しの際、事前に本人・家族の要望を確認し、カンファレンスの際、本人を交えて話し合いを行っている。	日頃の利用者の表情や言動、またご家族からの情報等を基にして、思いや意向をくみ取るように努めている。「個人台帳」に記載して情報の共有を図り、家族とも話し合いしながら、利用者にとって、よりよいケアとなるようプランに反映させて支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居されてからは、入居者担当が中心になり、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、本人へ体調を尋ねたり、バイタル測定を行い、記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを全員で行い、介護計画を立てている。ケアの実施内容、気づいた点は記録に残している。	介護計画は、利用者本人、家族の意向や希望及び医師を始めとした関係者からの情報を基に、職員全員で意見交換して、利用者本位のきめ細かな介護計画を作成している。計画には各利用者の課題と改善目標等を明確にし、ケアの実施内容や受診状況等も詳しく記載されており、利用者の状況に対応した介護計画の見直しや修正が適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことは、記録に残し、申し送り等、スタッフで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力はしているが、全て活用できているわけではない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は月2回。状態に応じてその都度往診がある。必要に合わせて他科受診なども適切に行えている。	利用者の入所前の既往歴や受診の状況は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関での受診を支援している。往診が月2回実施され、通院は家族もしくは職員が同伴しており、受診結果は利用者毎に個人台帳に記録され医師や家族との情報交換等も十分に行われている。近くに24時間対応の医療機関があり、夜間の急変時にも即対応してもらえる体制が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問があり、状態に応じて、報告を行い指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、入院前後もソーシャルワーカーを通して、入居者の情報をこまめに知ることが出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入る際、主治医より家族に説明を行ってもらっている。家族・スタッフ・訪問看護と共に支援している。	重度化や終末期の対応については、入所時に「重度化した場合の対応に係る指針」で説明して本人やご家族の理解を得ている。重度化した時点で再度説明を行い、本人や家族の意向を尊重して、主治医や訪問看護、家族と協力して施設で可能な限りの支援体制を築いており、これまで数件看取りを実施している。また、隣接の2グループホームの職員との合同研修会の実施や、改善点等の話し合いを行い、不安の除去やケアの質の向上に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時のマニュアルがあるが、定期的な訓練は行っていない。 ストレッチャー付車両の使用方法は、勉強会にて指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、消防署立ち合いで年に1回行い、自主訓練を2ヶ月に1回行っている。 地震訓練は、年1回行いながら、マニュアルを作成中。	消防署との連携により年2回火災を想定した避難・消火・通報等の訓練を実施しており、併せて隔月ごとに自主的にいろいろなパターンを想定した避難誘導等の訓練を隣接するグループホームと共に実施している。また、地域の消防団との協力体制も築かれており、スプリンクラーや自動通報装置等も設置され、災害に備えた食料や飲料水等も法人本部で備蓄されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、個人の状態に合わせた、声掛けなど行っている。	「サービス向上委員会」による接遇研修会や、ミーティングや職員会議で研修すると共に、日々のケアの中で職員は常に意識して支援に努めており、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉遣いや対応に心掛けている。排泄や入浴時の声かけやケアに際してはもとより、居室のドア等にも配慮し、事業所が発行する情報誌に掲載する氏名や写真等についても事前に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など、個々のペースで時間を変え召し上がっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出時は、本人の希望を合わせて服を選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせて、ブレンダー食やソフト食の提供も行っている。 見た目の色彩などにも工夫している。	利用者の嗜好、食事形態、疾病や服用中の薬との影響等を十分に把握して、栄養士が作成した献立を基本に差し入れの野菜等も活用して食事づくりに努めている。季節感のある食材や家族との会食、行事食、ドライブ時の外食、弁当持参の外出（花見等）等を実施し、またホールの壁にはその日のメニューを大きな字で貼る等、食事が楽しめるように工夫している。食材の下ごしらえや下膳等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事がとれない方には、食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、出来る方には声掛けをし、出来ない方は介助している。 年1回、検診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に合わせて行っている。	利用者個々の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように排泄のパターンを把握し、不安や羞恥心にも十分配慮しながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。尿意の無い重度の利用者には、適切な支援になるように十分に話し合いや、工夫を繰り返して対応しており、これらはケアプランにも組み込んで実践に努めている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、牛乳や食物繊維の多い食事を提供している。 運動や食事でも排便ない時は、主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>便失禁等の場合、入浴日に関わらず入浴している。</p>	<p>基本的には週3回の入浴であるが、失禁等には随時シャワー浴や清拭を行い、また水虫等皮膚疾患のある利用者には毎日入浴してもらう等衛生面に配慮して柔軟に対応しており、可能な限り個人の好みを汲みとり入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には、言葉かけ、時間帯、順番、スタッフ等を変更するなど、スムーズに入浴できる環境づくりの工夫を行い無理強いすることなく入浴してもらっている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼寝、夜間など個々の希望に合わせて休んで頂いている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>理解できる範囲で、尋ねられた時説明できるように心がけている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々に楽しめることやレクリエーションなど工夫して行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブ等を行ったり、苑の周辺の散歩など季節感を味わっていただけるよう工夫している。	利用者の健康状態や天候を考慮しながら、近隣の散歩やドライブ、苑庭での日光浴、隣接のグループホームの利用者との交流等を日常的に楽しんで頂いている。また利用者の希望も確認しながら、地域の行事（運動会、十五夜、流鏝馬等）にも出かけて交流するなど、外出が楽しみなものになるように工夫している。買い物、冠婚葬祭への参加、墓参、帰宅等の外出は、主に家族が同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は持っておられ、日用品を頼まれたりしているが、ほとんどの方は持っておられない。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙でのやり取りは出来ていないが、電話で家族の方とのやり取りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同制作の作品を壁面に飾り、季節感を味わって頂いている。温度計・湿度計も設置し、適度な空間作りに心がけている。	廊下は天窓があり、ホールも広く明るくよく整頓され、静かに気持ち良く寛げる環境である。壁には利用者と職員が共同で作成した季節感のある貼り絵や行事の際の写真、花などが飾られて和やかな雰囲気である。室温や湿度等にも細かく配慮がなされ、利用者にとって不快に感じる音や匂いもなく居心地の良い環境になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間の中で本を読んだり、テレビを視聴されたり利用者同士の会話もみられる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が希望する持ち物等は持ち込み、使用している。</p>	<p>和室、洋室があり利用者の身体状況や好みにより使用されている。各居室にベッド、エアコン、テレビ、テーブル、タンス、ソファ等が備えてあるが、本人やご家族の希望に沿って家族写真や使い慣れた食器、小物、花、人形、身の回り品等を自由に持ち込んで頂き、その人らしい好みの配置にされるなど、家庭と同様に落ち着いて過ごせるような空間づくりを支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すり、標識等工夫して設置している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない